

## 背景・課題

- 盛岡市内の不登校児童生徒数は、過去5年で小学校は約2.5倍（R2:103人→R6:259人）、中学校は約1.8倍（R2:247人→R6:445人）に増加。不登校出現の低年齢化。
- 小中学校ともに、不登校の要因や背景が年々多様化しており、対応の困難さも増している。
- 相談・支援を受けておらず、不登校が長期化している児童生徒に対し、学校内外で必要な支援を行うことが重要。

## 重点取組

- 不登校が生じにくい環境づくりの観点から、学校の風土づくりとその「見える化」の取組など、「安心して学べる学校づくり」の充実。
- スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業による支援体制の強化。
- 保護者支援や、教育支援センター等を含む学びの場の充実。（指標）：学校内外の機関等で相談・指導等を受けている児童生徒の割合【盛岡市教育振興基本計画】

## 不登校児童生徒支援委員会

市小学校長会

市中学校長会

就学前教育施設長会

市PTA連合会

市医師会

スクールカウンセラー

スクールソーシャルワーカー

児童福祉施設

児童相談所

フリースクール

教育相談事例研究会

子ども未来部

在学青少年指導員

関係機関の代表により構成

不登校児童生徒への対応や支援の在り方等の協議・情報共有

## 学校の取組

### 校内教育支援センター

自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間で自分で学習・生活できる環境を学校内に設置。

# 1

## 安心して学べる学校づくり

- 学校の風土づくりとその「見える化」
- すべての子どもたちの可能性を引き出す授業
- 健康観察の徹底と教育相談の充実

# 2

## 組織的な初期対応

- 小さなSOSにチーム学校で対応
- ケース会議、関係機関との連携
- 保護者との情報共有

# 3

## 学びの継続支援

- 校内教育支援センター運営の充実
- 学校外の学びの場の活用・連携
- チーム学校による家庭環境支援

## 学校づくりの支援

### 学校の風土づくりとその「見える化」の支援

- 指導主事による学校訪問
- 「子どもたちの学びを支えるガイドブック ver.4」の活用促進
- 「学校風土の「見える化」好事例の情報共有
- 盛岡市学力向上推進事業
- 「小学校学級経営」「小・中学校授業づくり」支援訪問
- 盛岡版アウトラリーチ型支援
- 盛岡市教育研究所の教育相談員等が学校訪問
- 各校の不登校児童生徒等の状況確認
- 校内教育支援センターについて助言
- ケース会議への参加
- 関係機関と連携しながら学びの場について検討
- 学校経営ヒアリング
- 内容の一つとして、「不登校に係る取組について」を位置付ける（5月）

## 研修・研究の充実

- 教職員研修
- 公開講座「不登校児童生徒支援講座」「教育相談講座」他
- 不登校対策相談員等研修会
- 専門研究員による研究
- 教育研究所の専門員研究として「不登校児童生徒の対応や支援に関する研究」を推進
- 支援体制の工夫による安心・安全な学校・学級づくり
- スクールソーシャルワーカーによる校内教育支援センターの充実
- アウトラリーチ型支援による校内教育支援センターの充実
- 研究発表大会での研究成果の普及・還元
- 日時：令和9年1月7日（木）
- 内容：専門研究員による研究【再掲】
- 教育相談事例研究会による研究

## 支援体制の整備

### スクールソーシャルワーカー活用事業

- 子どもが抱える様々な課題について、家庭環境等の環境面にアプローチして解決を支援するスクールソーシャルワーカー（SSW）を教育委員会事務局と「ひろばモリーオ」に配置。
- 【教育委員会事務局】統括SSW（SV）1名、訪問型SSW1名
- 【ひろばモリーオ】仙北・青山各教室：訪問型SSW各1名

### 「支援チーム」による継続的支援

- 教育委員会内に指導主事やSSW等による「支援チーム」を設置し、電話相談や訪問等により継続的に学校を支援。
- 毎月「長欠報告」による状況確認
- 児童生徒の欠席状況を学校から市教育委員会へ報告。担当指導主事が電話等により、支援体制の在り方について指導・助言。
- 定期的なチーム会議による情報共有と対応

### 相談員等の配置による校内体制への支援

- 不登校対策相談員：中学校16校に15名配置
- スクールアシスタント：小・中学校に68名配置
- スクールカウンセラー：小学校23校（39校中）、中学校21校（21校中）に配置

### モリーオCafé

- 学校生活や登校に不安を抱えている子どもとの保護者の交流の場。
- 年3回開催（6・11・2月）
- 内容：保護者同士の交流、個別相談など。

### 「教育相談室」

- 職員配置（市役所5階教育相談室）
- 教育相談員3名
- 相談方法
- 電話（651-7830）、来室相談（月～金曜日 9時30分～17時）
- メール相談（随時）

## 学びの場の保障

### 教育支援センター「ひろばモリーオ」

- 目的
- 不登校児童生徒の社会的自立に向け、教育相談を行いながら、一人一人に応じた学習・生活等の適切な支援を行う。
- 設置教室及び職員配置数
- (1) 青山教室（教育相談員1名、専門指導員2名、SSW1名）
- (2) 仙北教室（教育相談員1名、専門指導員2名、SSW1名）
- 主な取組
- 学校等へのアウトラリーチ型支援。
- SSWによる個別相談会の開催。
- 様々な体験活動を実施。
- GIGA端末を活用した学習。
- 高校見学、モリーオ見学会の実施。

### 家庭でのICT活用

- GIGA端末持ち帰り
- AI型ドリルを含む積極的な活用

### いきいきスクール

- 目的
- 様々な体験活動を通して、社会の中で自己実現していく力を高める。
- 参加者
- 盛岡市及び近郊市町の不登校児童生徒等
- 実施回数及び内容
- 年5回（農業体験、文化施設体験学習等）

### 「ひろばモリーオ」サテライト分室

- 目的
- 「ひろばモリーオ」や校内教育支援センターに通うことが困難な児童生徒の「居場所」の保障
- 設置教室（公民館等の社会教育施設）
- 中央公民館、松園地区公民館、西部公民館、見前地区公民館
- 支援体制
- 社会教育指導員兼専門支援員や教育相談員等による見守り

### フリースクール等との連携

- 市教育委員会による訪問、情報共有
- 不登校児童生徒支援委員会にフリースクール代表が参加
- 関連イベントの後援等

## 不登校児童生徒支援事業

- 不登校児童生徒支援本部
- 本部長：教育長
- 副本部長：教育部長
- 委員：教育次長、総務課長、学校教育課長、学務教職員課長、生涯学習課長、歴史文化課長、事務局：学校教育課